



「お疲れ様でした！」

「お疲れ様々。」

ライブよかったよ！リオナちゃん！」

「ありがとうございますー！」



私は新人アイドル、リオナ。十八歳！
個人でアイドル活動していたところをスカウトされて
最近メジャーデビューしました。



まだ小さなライブとかしかやったことないけれど、
どんどん活動の幅を広げて有名になるのが目標です！

「んんんん。」

「どろどろ。」

「誰だろう?」



「リオナちゃんお疲れー。
ライブよかったよー♥」

「あっ○○さん♥」

「見に来てくれたんですね♥」



この人は大手芸能会社のプロデューサーさんです。
デビューして間もない私に色々お仕事をくださるとてもいい人です。



もちろん、タダでお仕事をくれる訳ではありませんけどね・・・♡

「新しい衣装似合ってるねー♥」

「ありがとうございます♥」



「でね、良い仕事があるんだけどさあ♥
紹介するかわりに・・・いいよね？」

「リオナちゃん♥」

「・・・はい♥」

「失礼します♡」

ヌ
ア
ッ
♡

「おおっ♡

やっぱリオナちゃんのおっぱいすごいなー♡

俺のチンポをずっぽり挟めるんだもん♡

芸能界イチの爆乳アイドルだわ♡♡」



「新しい衣装エロイよね♥

ライブ中リオナちゃんが動いたたびにこのデカ乳がぶるんぶるん揺れてさあ♥
君のファンもライブ終わった後トイレに駆け込んで抜いたりしてw」

「もおっ♥

何言ってるんですかあ♥」

「興奮しちゃうくせに♥

リオナちゃんアイドルなのに
すっごくエッチな娘だもんね♥」

「うう・・・♥」

お
ちゅ
っ
い

お
ちゅ
っ
い



「いじわるはダメですっ♡♡」

「くおツツ♡♡
そんな激しくシゴかれるとツツ♡」





「ふう……♡」

「○○さんっ……♡」

その……良いお仕事つてのは……♡」

ドロ……

「まあそう焦らないの♡」

そのエロ衣装もうちよつと堪能させてよ♡」

「……分かりました♡」



「あっあの・・・○○さん。その・・・ゴムは・・・。」

「紹介しようかと思ってる仕事、
今までで一番良い仕事なんだよね。
一気に有名になっちゃうかも♥」

「ッ・・・♥」

「じゃあ、挿れるよ♥」

「はい・・・♥」



「んんッ♥♥」

「あー♥」

「リオナちゃんの生マン」やばッッッ♥♥



「若いアイドルの女の子はやっぱりいいなー♥
めっちゃ運動してるからマンコの締めまり最高♥♥
そこらの女とは別物だわ♥」

「んっっ♥あっっ♥♥♥」

「乳揺れやばっ♥

リオナちゃんは若いアイドルの中でも別格だよ♥♥♥」



「あーイクツツ♥♥
中に出すよツツ♥♥」

「な、ナカ・・・♥」

（本当はイヤだけど・・・
有名になるためだもんっ・・・♥）

「はいッ・・・♥ナカに出してくださいッ・・・♥」





「あー・・・生ナカ最高ッ・・・♥」

「あの・・・♥」

「分かってるよ♥

君のマネージャーに
この後連絡しとくね♥」

「はい♥ありがとうございます♥」

これで売れっ子アイドルに一步近づける・・・よね・・・♥



「お疲れ様です。」

「……きやあ!!」

「はあ♥♥はあ……♥リオナちゃん♥

ウチの会社の新作ビールの撮影会お疲れ様♥」

「あっはい……♥

しゃ、社長さん?

あのっ……何して……♥」



レギュ

ギュ

「〇〇さんから君を紹介されてね♥
撮影会後君の身体を好き放題させてくれるなら
起用しても良いって言ったんだ♥
快く了承してくれたよ♥」

「んっ♥
そ、そうだったんですね♥
(聞いてないよぉ〜)」



「リオナちゃん写真で見た通り
すっごく良い身体してるねえ♥
太ももにちんぽ入れるだけですごい気持ちいいよ♥」

「あッ・・・♥や・・・♥」



んぎゅッ
ズボッ

ズボッ

「おっやっ・・・♡」

「ひゃっ・・・♡」



「私は硬さと弾数には自信があるんだ♥
存分に楽しませてもらうよ♥」

「・・・はい・・・♥」

（びっくりしたけど、これもお仕事だもんね・・・♥）

んぎゅっ

シロク...



「おおっ♡下から見ると迫力のあるおっぱいだなあ♡」

「そうなんですか?♡」

「ああ、君の身体は天性の才能だね♡

しっかりその才能を生かしてくれ♡」

「・・・では失礼しますね・・・♡」



「んんッ♡♡」

「おお・・・♡」

「社長さんのおちんぽすげい・・・♡
ガチガチっ・・・♡」



「あッ♡はんツツ♡んんツツ♡♡」

「くっっっっ♡」

ズレズレ

グググ



「十代とは思えないスケベな腰使いだなあッ♡♡」

ズレズレ

グググ



「気持ちよさそうにしてっ・・・♡
どれ、私も下から突いてあげよう♡」

「あッッ♥ダメですうッ・・・♥」

「おおツツ♥締めりがツツ♥♥」

リ
グ
ッ
ッ

グ
ン
ン
リ

「はい、はい」

い
ん



「社長さんのおちんぽすっごい・・・♡」

はーはー

「全くだまらんなあ♡♡
まだまだちんぽがギンギンに元気だよ♡♡」

ゴュー...

ゴュー...





「またイクのかツツ♥このドスケベ淫乱アイドルツツ♥」

「ああツツ♥イクツツ♥いつちやうツツ♥」

グハッ

パニッ

グハッ

ズブッ

ハッ





はいはいはい

ブリ
リッ
ッ

ヌ
ッ
ッ

グ
ッ
ッ

「ほらッッ♥まだまだイクぞッッ♥♥」

「ああッッ♥もうダメですうッッ♥♥」





「ん♡ん♡」

「ん♡ん♡」

「ん♡ん♡」

「ん♡ん♡」

「ん♡ん♡」

「ん♡ん♡」

「ん♡ん♡」

「ん♡ん♡」



はーはーはー

ドボン

グイグイ

「はー♥はー♥

。。。リオナちゃん、

また今度ウチで仕事があれば来なさい♥

「はい。。。♥ぜひ。。。♥」

今日は痴漢撲滅強化月間という電車広告用の
撮影会と聞いていたのですが・・・。

「あのっ♡こ、これはいつたい……。」

「あーそれっぽく拒否する演技してくれる？
痴漢撲滅がテーマな訳だからさ」

「えっと……は、はい……。」



ギョッ

ギョッ

（ど、どうすればいいんだろっ……。
激しく抵抗するのはアイドルっぽくないよね……？）

「や……やめてください……♡」

「……」

(あうう……♡)

お尻に硬いのがあ……♡)

「……困ります……♡」

ムニャ

ギム

ゴリッ

グニッ



「リオナちゃん。」

そんなんじゃ全然痴漢撲滅できないよー?」

「ぐーごめんなさいっ……♡」

「そんな抵抗じゃ

逆にエスカレートしちゃうよー?

痴漢役の方、もっとやっちゃっていつすよ」

「え……?」

ムキムキ

グリッ
グー

ギン

グリ
グー



「やっやめっ♡あんツ♡あッ♡」

「やめてっ・・・♡くださっ・・・♡
んんツツ♡」

（こんなのもう痴漢の域じゃないよお・・・♡
なんなのこの撮影会い・・・♡）

ズ
ブ
ッ

バ
ン
ッ

「あのっ♡これっ♡
変じゃないですかっ?♡♡」
「.....」
「やっ♡あッ♡
ダメえッ♡♡♡」





はっ♡

はっ♡

「う……そ……♡」

「いいねーリオナちゃん♡」

「じゃあもつと制服乱れるくらいガッツリいつちやおつかー♡」

「（これも……アイドルのお仕事なの……？）」

どたん…

グッ



「いやッッ♥♥♥
ダメえッッ♥♥♥」

「イクッッ♥♥♥いつちやうッッ♥♥♥」





「ふう……。お疲れさまでした。」

「お疲れ様でしたー！」

「すげーエロくてよかったよーリオナちゃん♡」

「。。。は。。。い。。。♡」

「これで。。。よかったのかな。。。？」

「頭ばーつとしてもうよく分かんないや。。。」



「リオナちゃん、さつきはありがとうね♥
すごいエロくて気持ちよかったよ♥」

「あ・・・はい・・・ありがとうございます・・・」
(さつきの痴漢役の人だ・・・)

「僕ね、○○会社の社長なんだ。これ名刺。」

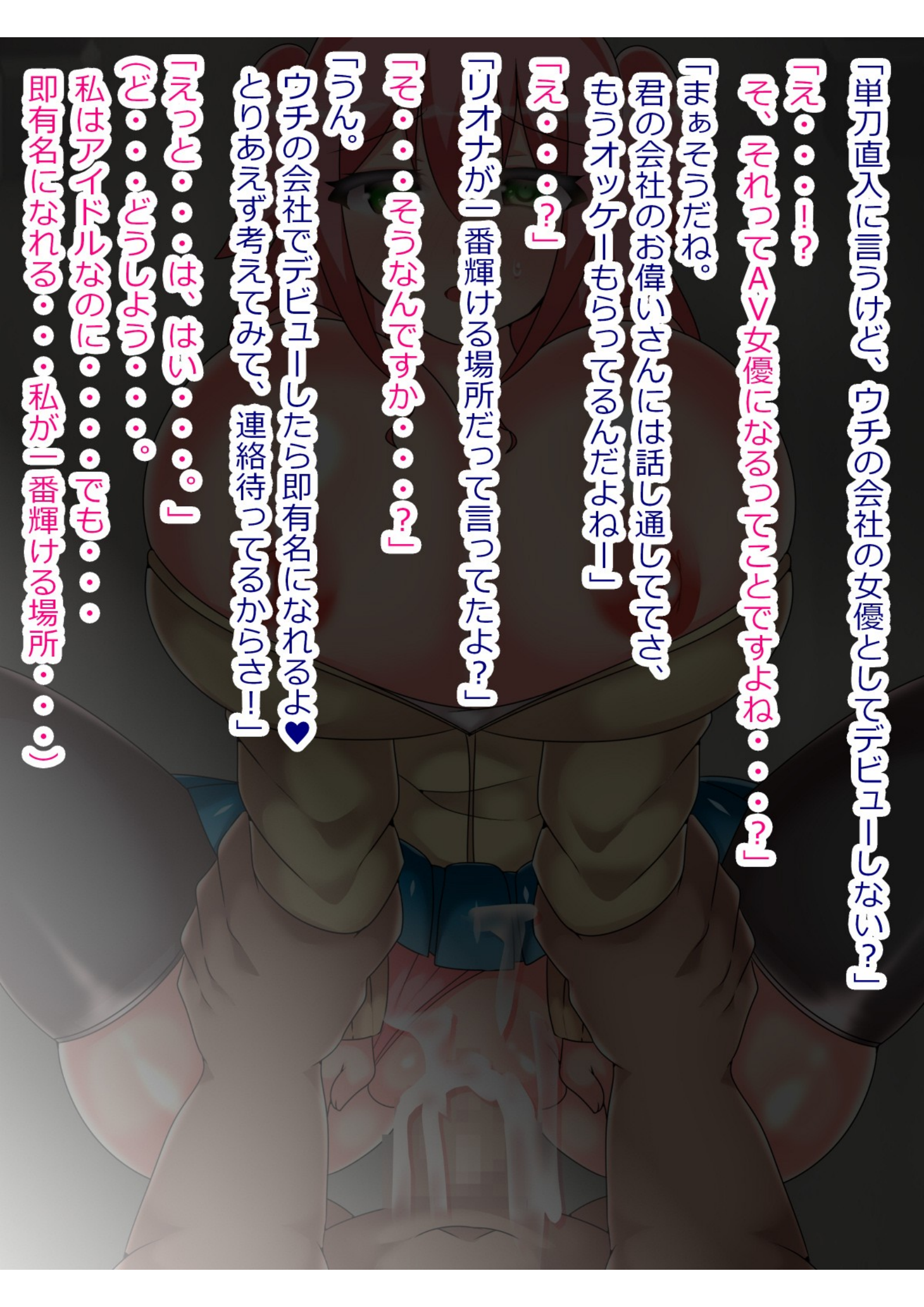
「えっそうなんですか!?

お、お名刺頂戴いたします・・・」

(○○会社って超大手の・・・AV会社だよね・・・)

「リオナちゃん、君僕の会社ですつと前から目え付けててさあ♥
すげーエロイアイドルって聞いてたけど、ここまでとは思わなかったよ♥」

「は、はあ・・・」



「単刀直入に言うけど、ウチの会社の女優としてデビューしない?」

「え……!？」

そ、それってAV女優になるってことですよね……?」

「まあそうだね。」

君の会社のお偉いさんには話し通じてさ、
もうオッケーもらってるんだよね」

「え……?」

「リオナが一番輝ける場所だつて言ってたよ?」

「そ……そうなんですか……?」

「うん。」

ウチの会社でデビューしたら即有名になれるよ♥
とりあえず考えてみて、連絡待ってるからさ!」

「えっと……は、はい……。」

(ど……どうしよう……)

私はアイドルなのに……でも……

即有名になれる……私が一番輝ける場所……)

「名前は？」

「リオです・・・♡」

「年齢は？」

「十八です♡」

「おー♡若いねー♡」



「おっぱいすげえ大きいよねー♥
何カップあんの？」

「Kカップです・・・♥」

「デッカ♥♥」

「おっぱいで感じちゃうタイプ？」

「んっ・・・♥」

「はい・・・♥」

「エロイなー♥」

モニッ

キュッ

んっ

んっ

「その服かわいいね
アイドルみたい♥」

「えっと・・・♥」

「その可愛い恰好で
これから何するか・・・。
分かる？リオちゃん♥」



ドキッ

ん

グ
ッ

ム
チ
ュ
ッ

ッ

ん

ん

「・・・エッチなこと・・・
ですかね・・・♡」

「エッチな事って？
どんなこと？♡」

「・・・セックスです・・・♡」

「正解♡」

「じゃあさっそく始めようか。
リオちゃん♡」

「・・・はい♡」

「ヒキッ
ヒキッ
ヒキッ」

「ギュー〜」

「ムニッ」





「あツツ♥んんツツ♥」
（こんなにたくさんのおちんぽ・・・♥）
頭おかしくなりそお・・・♥



「んぐツツ・・・♡

イツ♡イツちやううツツ♡♡♡

ハロチン

ハロチン

グロ

グロ







この私のAVデビュー作、
「元アイドルの爆乳美少女♥全人類待望のAVデビュー」は
とっても売れたらしく、新人アイドル・リオナ改め
新人AV女優・リオは一躍有名になりました♥

END